

秋田のリーダーに聞く



■家業を継ぐために帰郷
男鹿市若美地域にある自動車整備工場の老舗「山王丸自動車」の3代目を務める山王丸さん。初代にあたる祖父は自転車店として開業したが、やがて自動車を取り扱うようになったという。

2代目だった父の「好きなことをやってほしい」との方針もあり、当初山王丸さんには家業を継ぐ意志はなく、東京で建設業界の仕事に就職していた。しかし家族の健康など、状況の変化から事業の継承を決意。在京のカーディーラーに勤務して、自動車業界での経験とノウハウを携えて帰郷。2003年に同店に入社、2005年に代表取締役となった。

「ありがとう。また頼むよ！」そんなお客様の声を励みに、店を営んでいる。

■「秋車協」の理事長に
2013年、山王丸さんは「秋田県自動車車体整備協同組合」の理事長に就任した。同団体は「自動車車体整備士」の普及と発展のために、全国各地で支部が活動している。

「自動車車体整備士」とは国家資格のひとつで、学科・技能試験などを通じて、国土交通省が定める一定の基準を満たしたエキスパートが取得できる。

「まだまだ知名度が低いので、どのような資格なのか。どのような技術を持っているのか、そうした基本的な段階から周知を図っていく必要がありますね。目を引く看板などサインを設置したり、テレビCMやインターネット、雑誌などを通して多方向から情報を発信していきますよ」と山王丸さんは意気込む。

秋田の自動車整備業界へ できることを「着実」に

■秋田独自の制度「ASOMs（アソムス）」
同組合では、お客様の満足度アップを目指して、秋田県独自の認証制度「ASOMs（アソムス）」を立ち上げた。

事業計画を立てて実施し、反省点などを踏まえて次に活かすのがPDCAサイクル。こうした理想的な循環を実現している事業所を「ASOMs 認定工場」として評価するもので、チェックシートや現地調査などを通じて認定書を発行。ゆくゆくはISO9001認定取得も視野に入れている。

「自動車車体整備士」が事故車の修理などで、ドライバーが安心して愛車を預けられるプロフェッショナルであることを証明するためにも、技術者たちの地位と技術の向上を図り、次世代につなげていく。

■将来への課題
今後の課題として山王丸さんが挙げているのが、钣金工場や整備工場といった事業所間の連携だ。必要な車両情報のやりとりがスムーズにできれば、より素早く的確に作業に対応でき、利用者へのサービス向上にも結びつくと考ええる。

「この業界では、自動車メーカーの進歩が本当に速く、各工場はついていけても労力がある。そこで、工場が業界を引っ張るような仕組みを築けていけたらいいですね」と話す。

■秋田の自動車整備業界のために
山王丸さんの地元・若美地区周辺には、国道沿いに自動車工場をよく見かける。農家が多く、作業用車などで1人が1台以上の車を所有する世帯があるのが理由だとか。

「店を切り盛りしながら、理事長職を務めるのは難しい場合もあります。でもそれは両輪のようなものかもしれないですね。店が盛り上がりれば業界に貢献できるし、組合の活動にもさらに力が入ります。そうした流れがうまく回ることが、なによりお客様へのサービスにつながると思っています」

目標の実現のためにやるべきこと。山王丸さんは多忙な日々をこなして、それらをしつかりと見据えている。

秋田県自動車車体整備協同組合
理事長

山王丸 洋一

Saunoumaru Youichi

1967年男鹿市生まれ。祖父が開いた自動車整備工場「山王丸自動車」代表取締役。2013年「秋田県自動車車体整備協同組合」の理事長に就任。